

【報告】令和6年度 対話の場
フルインクルーシブ教育 ～みんなで考えよう 海老名の教育～

フルインクルーシブ教育を推進していくための第一歩として、対話の場「フルインクルーシブ教育～みんなで考えよう 海老名の教育～」を開催いたしました。市民のみなさまと直接対話をしていくという初の試みでしたが、多くのご参加をいただきました。ご参加いただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。

対話の場面では、「フルインクルーシブ教育」に対する不安の声もたくさんありました。このことについては、今後も丁寧な説明と、対話をする機会をさらに設けていくことが必要であると考えています。その他にも、具体的なアイデアや、海老名の学校をどんな学校にしていきたいかなど、たくさんのご意見をいただきました。フルインクルーシブ教育は、一人ひとりの学びの保障が前提であるということを、引き続きご説明していきたいと思ひます。

フルインクルーシブ教育に対する不安や懸念、実現に向けてのアイデア等、いただきましたご意見はフルインクルーシブ教育をさらに推進するための素地としていきたいと思ひます。

今後とも、ご理解、ご協力をお願いいたします。

開催日時：6月15日（土）6月16日（日）、6月23日（日）の3日間

10:00～11:30、14:00～15:30 実施、全6回

場所：中学校区内のコミュニティセンター 6か所

- | | | | |
|---|---------|---------------|---------------------|
| ① | 海西中学校区 | 中新田コミュニティセンター | 6月15日（土）10:00～11:30 |
| ② | 海老名中学校区 | 国分コミュニティセンター | 6月15日（土）14:00～15:30 |
| ③ | 大谷中学校区 | 大谷コミュニティセンター | 6月16日（日）10:00～11:30 |
| ④ | 有馬中学校区 | 社家コミュニティセンター | 6月16日（日）14:00～15:30 |
| ⑤ | 今泉中学校区 | 上今泉コミュニティセンター | 6月23日（日）10:00～11:30 |
| ⑥ | 柏ヶ谷中学校区 | 柏ヶ谷コミュニティセンター | 6月23日（日）14:00～15:30 |

内容

1. 教育長挨拶



2. 趣旨説明



3. グループでの意見交換



4. 全体共有



ご意見（抜粋）

- ・ 不安な気持ちがある。前例もない。成功事例を作っていくことが必要だろう。間違っただとしても修正していく仕組みがあるといい。
- ・ うちの子は支援級、養護学校に行ったが、こういうところがなくなってしまうと、どういう形になるのか自分には想像ができない。今小中学校に通っている方は不安じゃないか。
- ・ 1つの場に無理やり入れられるのが良いのか。今のままでは難しい。今の学校を「がらっと」変える必要がある。就学前・学校・社会と連続性ある取組が必要。その子に応じた選択ができることが必要。
- ・ ただでさえ人手不足で、30人学級とプラスで取り出しも見るとかと思っていた。教育長の話や劇を見て、1人1人の意識を変えて行くことがフルインクルーシブ教育なのかなと思った。
- ・ いいな、と思っている。実際どんなことをやっていくか楽しみ。知りたい。
- ・ 目的は、どんな子どもでも一緒に過ごせることをめざすことだろう。えびなの教育現場を見てみると、考え方に差がある。地域の差もあるだろう。ソフトもハードも一気にはできない。
- ・ 自分はこういう人間だよ、と言ったときにそのままを認めてもらえる雰囲気をつくってほしい。特別扱いもいらないし、小学校ではいなかったのが車イスの存在すら知らなかった。特別の配慮ではなく当然のことではないのか。
- ・ 教員の働き方改革が言われる中で、教員への支援・サポートは気になる。
- ・ フルインクルーシブになったらきっと先生方が足りなくなる。そうしたら、自分も協力したい。地域の皆さんが生かせる場所、その方法があるといいなあと思う。
- ・ 不登校や集団が苦手な子、療育の子はどうなるか。すべての子の学びが保障されるのか。
- ・ 地域や先生、親など一丸となって子を育てる。もっと教育に口をはさむ。大人でも障がいのある人が友達にいと理解が進み、障がいのある人を町で見かけたら手助けできる。具体的な手段は分からないが知識・経験を増やしていけると良い。
- ・ 学校だけでなく、社会もインクルーシブに。小さいころ（生まれたとき）からお互いが当たり前で認め合えるようになるといい。
- ・ プールの付き添い、全校遠足の付き添い、などもっと地域の方が学校に関わっていいと思う。もっと使ってほしい。
- ・ コロナで一旦閉鎖され、ここが変わっていくチャンス。周りが入っていけるようになるといいと思う。
- ・ 1つの学校の中にも選択肢を増やす。高校入試があるから中学校は成績が心配。
- ・ ゴールは正直ないのかも。違いがあることが分かる。自他の違いを認識したうえで受け入れる。子ども同士が言い合えたりする環境ができれば一応のゴール、目指す形なのかもしれない。
- ・ 先生1人だとできないのでは。サポーターするスタッフが必要。子ども同士の関わりも大切だが、補助してくれる人が豊富にいてほしい。
- ・ やることはとてもいいことだと思うが、その先に自由選択があるかどうか。一クラスの人数を減らすべき。
- ・ 子どもが明日も学校行きたいなと感じられることが大事。勉強だけではない。

- ・ 包み込むインクルーシブの前に、多様性を理解する、ダイバーシティを理解するという事の方が先に必要なんじゃないか。
- ・ いろんなお子さんが一人一人のニーズに応じていく際の適正人数について考えていく必要がある。35 人では難しい。10 人のクラスがあってもいい。違う学年の先生と共に過ごしていくのもいいと思う。
- ・ 理想なのかなと思うが、今の学校制度の在り方の中に入れるのは難しい。学校教育そのものを変える必要がある。個別の方が入る子、聴覚が過敏な子など、その子に合ったやり方で行うのがインクルーシブ教育。相当な設備投資・人材確保・カリキュラム変更などすべて考えていかなければならない。
- ・ 理解が先か始めるのが先か。クラスの垣根を取るなど先に始めてその環境に身を置いてみるのも良いのでは。1 か月間など長めに支援学校とクラスを混合してみる。
- ・ 価値観がみな違うので、違いを認めるところから始める。
- ・ インクルーシブ教育は共生社会の礎だと思う。昔は、男女別の学校だった。はじめ共学になるときに抵抗があった。これも同じことではないか。当たり前になる。一斉授業の限界がきている。個別教育計画を取り入れたりしながら、当たり前を崩していくこと、みんながみんなを認めていけるような学校になるとよい。
- ・ 通常級と支援級の話ではなく、目が見えない子、重度の子なども含めての話だから どこまでできるのかな
- ・ 先生が 35 人の生徒を見るのではなく、子どもが先生を選んで自分に合った学習ができるのがいいと思う。飛び級もあり。なんで6 年間、そこに留まらなければいけないのか。
- ・ 障がいのあるなしでなく、全員が支援の対象という意識を持たなくてはならない。同じ場というのが教室なのか、学校の中なのか、地域の中なのか。不登校の子が学校に来なければならないのではなく、地域の中で学べれば。そういうことを話し合っスタートできれば。同じ教室に入れて一斉授業をするのではなく、個別最適な学びを目指して学校を変えていかなければならない。教員の意識改革が最も大切になるだろう。
- ・ 国際的な流れであり、素晴らしい取り組みである。反面、定数の問題など、課題も多いと感じている。予算的な見通しをもって、やってもらっていると思うが、期待 7 割、心配 3 割である。
- ・ 障がいがある子のことだと思っていた。海老名の子どもたちがどうなっていくんだろう。目指すところが見えない。フルインクルーシブと聞いて、フルがつかなくてもインクルーシブな社会になっていくといい。
- ・ 好きなことを積み上げていくと、苦手なことにも挑戦できるようになる。それを待ってもらえる学校。本人が決めた選択は尊重してもらえる学校。
- ・ 海老名市は支援学校もある。「今日は支援学校、今日は地域の小学校に通う」などと選択できるとよい。
- ・ 多数にも少数には合わせないとなると答えは何？最終的には選べるという状況を作っていくことが大事なのかなと思う。